

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成27年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
27-2	多様な観測データの活用による道路交通施策評価のためのモデル開発	早稲田大学 教授 佐々木 邦明	A
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>道路交通政策が個人の行動の変化などに与える影響を評価するためのアクティビティシミュレータと、交通流を再現する交通流シミュレータの統合システムに、日々蓄積されている様々なビッグデータを同化する仕組みを実装し、道路交通施策評価を市民の生活の変化として、精度良くとらえるモデルの開発。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>ツアーベース型アクティビティモデルや逐次型アクティビティシミュレータを構築するとともに、各種シミュレータと観測データの同化によるシミュレーションの精度向上の可能性や、アクティビティシミュレータと交通流シミュレータの統合により道路施策評価ができる可能性などを示している。このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. アクティビティシミュレータの研究開発に関する実務事例は少なかったが、本研究は多様な観測データを活用し、道路交通施策が市民の生活行動に及ぼす影響を評価できるよう、その実用化を試みた点で評価できる。</li><li>2. アクティビティモデルと交通シミュレーションを融合させた意欲的な研究であり、成果もきちんとまとまっている。ただ、道路政策評価の結果として示されているのが「自由活動数」と「自由活動時間」のみであり、今後さらに、市民生活に密着した評価ができるように発展させて頂きたい。</li><li>3. 個々のシミュレータの解析対象に照らして、シミュレータにどのような観測データを同化するのが効果的・効率的なのかなど、実務での利用に向けて、さらなる研究の発展が期待される。</li><li>4. 実務への反映のため、適切な観測データの選択に対する留意点や適用を整理されることを期待する。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。